

法蔵 328号 冬号

・2月12日(火)午後0時より 「定例法話会」お話ししていただく布教使さんは、旭川市 昭法寺の伊藤孝順師です。久しぶりに来て頂きます。お参りをして、美味しいカレーライスを食べ、法話を聞きます。2時半終了予定です。参加人数の目標は20人です。まだ一度しか達成していません。今年は、今一度20人を目標に定例法話会を開いてまいりたいと思います。是非聞きにいらしてください。

・2月28日(金)午後1時より 「親鸞聖人御命日のお参り」

・3月8日(日)午後1時より 「おみがきもの」(順信寺の仏具みがきをいたします。御参加御協力よろしくお願い申し上げます。)

・3月12日(木)午後0時より 「定例法話会」 お話ししていただく布教使さんは、まだ決まっていません。念仏には、教えがあるのです。仏さまのお話を聞いてまいりましょう。

・3月20日(金)午後1時より 「春彼岸会法要」 春です。

「此の道を行けば どうなるかと危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし
ふみ出せば その一足が道となる その一足が道である
わからなくても歩いて行け 行けばわかるよ」

この詩はアントニオ猪木がリング上で詠んだ詩です。猪木が詠んだのであまり真剣に聞いてはいませんでした。しかし、これは清沢満之の孫である明達寺住職の清沢哲夫さんの「道」という詩なのだそうです。猪木が詠んだということで頭から聞く気がなかった自分が清沢哲夫さんということで聞いてしまう私を知らされました。物の価値が分からないものは、名前で振り回されてしまうのであります。

「この物語の主演は、あなた」

何が起こっても、道を失っても、あなたという物語は続いているのです。

(五木寛之)

～「十人十色」。十人いたら十の違った人生があります。何が起こってもこの物語の主人公は私。今年も一年の間には色々なことがあるでしょう。投げ出さず、頭を抱えて、生きて参りたいと思います。

「倚りかからず

もはや できあいの思想には倚りかかりたくない

もはや できあいの宗教には倚りかかりたくない

もはや できあいの学問には倚りかかりたくない

もはや いかなる権威にも倚りかかりたくはない

ながく生きて 心底学んだのはそれぐらい

じぶんの耳目 じぶんの二足のみでたっていて なに不都合のことやある

倚りかかるとすれば それは 椅子のせもたれだけ」 (茨木のり子)

「自分の感受性くらい

ばさばさに渴いてゆく心を ひとのせいにはするな みずから水やりを怠っておいて

気難かしくなってきたのを 友人のせいにするな しなやかさをうしなつたのはどち

らなのか

苛立つのを 近親のせいにはするな なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを 暮らしのせいにはするな そもそもが ひよわな志にすぎなかつた

った

駄目なことの一切を 時代のせいにはするな わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ」 (茨木のり子)

～人をなめず、そして、あきらめず、自分自身の責任を放棄せず、聴いて、考えて、聞いて歩んでまいりたいと思います。

○ 1月12日の修正会・定例法話会・新年会にご参加をありがとうございました。楽しいひと時を過ごせたのではないかと思います。やはり今年の抱負？は「飲みすぎない」。反省！

今年来れなかった方は、来年是非来てくださいね！！

・忠峰コーナー

「大老が おどる八木節 新年会」

「テカテカの 道路が怖い 一步二歩」